

定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業に対する

ケアマネージャーからの疑問・相談事例

事例1

依存心の強いご利用者さんから頻回な電話連絡で対応に困惑しています。

回答1

相談通報の窓口は24時間オペレーターが担います。当該サービスの利用により、今まで頻回にあった居宅介護支援事業所への連絡も減少しています。いつでも繋がるという安心感から、日がたつにつれてコールが減り、落ち着いて生活を送れるようになったという実績がみられます。

事例2

独居の為、早朝・夜間など生活状況が把握しきれない時間帯がある。

回答2

1日複数回の利用により見えてくる生活状況も多々あります。例えば「眠剤を朝服用していた」「食事制限があるのに間食していた」「1日1食しか食事していなかった」等の見えていなかった原因がみつき、課題解決に結びつき生活改善に繋がることもあります。

事例3

退院期日直前に要介護5の方の新規相談を受けました。家族・病院・サービス事業所共同してプラン立案したいが集める時間がない。ショートステイを検討しましたが空きも見つからず、退院まで時間がありません。

回答3

当該サービス利用により、在宅生活を継続できる場合があります。計画作成責任者が情報を丁寧に集約させていただき、いわゆる、サブプランナー的な存在としてサポートします。重度者であっても住み続けた家で生活を続けられるよう生活面・医療面ともに包括的に支援してまいります。

事例4

年末年始などの大型連休中のサービス調整に苦慮しています。

回答4

24時間365日対応の為、ケアマネ事業所のお休み期間もその都度、サービス調整は必要ありません。勿論、ご利用者様の状況・状態に応じて適宜報告・相談し密な連携を図ります。

事例5

給付管理の仕方が複雑なように感じてしまいます。サービス導入のハードルになっているのでは？

回答5

初期加算やその他の減算等がある為、分かりづらいというご意見を多々頂戴しております。計画作成担当者がその都度、丁寧にご説明いたしますので、お気軽にお問い合わせ下さい。